

令和5年第1回富山県教育委員会議事日程

1月16日（月）午後1時

県民会館611号室

1 会議録の承認について

令和4年12月19日開催の令和4年第13回富山県教育委員会会議録の承認について

2 報告事項

- (1) 令和4年度第1回とやま学校多忙化解消推進委員会開催結果について
教職員課長から説明した。
- (2) 令和4年3月県内中学校・義務教育学校卒業生進路状況調査結果及び令和4年3月
高等学校卒業生進路状況調査結果について
- (3) 第6回令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会の開催結果について
県立学校課長から説明した。
- (4) 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
保健体育課長から説明した。

3 今後の教育委員会等の日程について

4 議決事項

議案第1号 富山県生涯学習審議会委員任命の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第2号 富山県社会教育委員委嘱の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条7項により、議案第1号及び議案第2号は非公開となりました。

令和4年度第1回とやま学校多忙化解消推進委員会開催結果について

令和5年1月16日
教 職 員 課

1. 委員会の設置趣旨

学校現場の多忙化を解消し、教員の働き方改革を推進するため、富山県公立学校の教職員の在校等時間の状況を踏まえ「富山県公立学校における業務改善推進に向けた取組」に係る具体的な取組の効果や、今後求められる取組等について、幅広く各方面の関係者から基本的な考え方を議論いただくもの

2. 委員名簿 別紙のとおり

3. 第1回会議の概要

(1) 日 時 令和4年12月27日(火) 14:00~15:30

(2) 場 所 富山県民会館 401号室

(3) 主な意見等

① 教職員の意識改革について

- ・先生方が早く帰ることで、旅行、ボランティアなどのための時間が確保され、教員のウェルビーイングの向上につながるのではないかと。
- ・働き方改革の事例をまとめ、周知することで他校の良い取組みを取り入れることができる。
- ・予算など様々な制約があるなかで、これまでの取組みにより成果は出てきているのではないかと。
- ・若い先生方の参画によるプロジェクトチームを作ってはどうか。

② 効率的・効果的な業務の推進

- ・Webフォームを用いたアンケートなど、ICTを活用した事例が出てきている。
- ・会計、県費外会計の事務を事務職員が担うといった取組事例を広げてほしい。

③ 地域・専門人材の活用による体制整備

- ・スクール・サポート・スタッフの配置はありがたい。学校現場の様々な業務を担ってもらえるとありがたい。
- ・コミュニティ・スクールの導入により、地域や保護者との協力体制が構築できている。

④ 部活動の負担軽減と教職員の健康管理

- ・部活動の地域移行や、校時短縮などが実施された地元の先生方は、家庭を大切にするなどリフレッシュできており、以前より元気である。
- ・時間外勤務を目標値まで縮減するには、やはり中学・高校における部活動指導など大きなウエイトを占める問題を解決していくことが必要。
- ・土日の部活動の地域移行がなされれば、さらなる時間外勤務の縮減が期待できる。
- ・すべての地域にスポーツクラブがあるわけではない。部活動には、子どもの人材育成や可能性を伸ばす面もある。

⑤ その他

- ・PTA会長から会員へ教員の働き方改革を訴え、理解を求めるなど、保護者間でも課題の共有が進んでいる。
- ・時間外の留守番電話対応に理解を示すなど保護者の意識も変化しており、意識改革は進んでいる。
- ・先生のなり手不足に直面しており、多忙化解消は喫緊の最重要課題である。

4. 今後のスケジュール

2月下旬 第2回委員会（新年度予算、取組み説明、協議）

令和4年度 とやま学校多忙化解消推進委員会 委員名簿

【委員】

(五十音順、敬称略)

所 属	役 職	氏 名	備 考
富山県教職員組合	執行委員長	相澤 誠	
富山経済同友会	副代表幹事	大橋 聡司	委員長
富山県PTA連合会	副会長	勝田 民	
富山県商工会議所連合会 黒部商工会議所	監事 会頭	川端 康夫	
朝日町教育委員会	教育長	木村 博明	
富山県小学校長会	副会長	國香 真紀子	
富山県高等学校長協会	副会長	佐野 友昭	
島谷法律事務所	弁護士	島谷 武志	
富山県中学校長会	会長	白江 日呂雄	
富山県体育協会	専務理事	東瀬 義人	
富山大学経済学部	教授	中村 真由美	副委員長
富山県高等学校教職員組合	執行委員長	中山 洋一	
富山県高等学校PTA連合会	会長	松山 朋朗	
富山大学附属病院	臨床心理士	密田 博子	
富山市教育委員会	教育長	宮口 克志	

計 15名

令和4年3月県内中学校・義務教育学校卒業生進路状況調査結果

令和5年1月16日
県立学校課

令和4年3月に県内の中学校(国立1校、公立74校1分校、私立1校)・義務教育学校(公立3校)を卒業した者について、文部科学省の学校基本調査に合わせて令和4年5月1日現在における進路状況を調査した結果は、次のとおりである。なお、全国順位は学校基本調査によるものである。

1 卒業生の進路状況

- ・県内中学校・義務教育学校卒業生数は8,907人(男子4,597人、女子4,310人)で、前年より124人減少した。
- ・高等学校等(高等学校、高等専門学校及び特別支援学校高等部)への進学者数は、8,851人(男子4,569人、女子4,282人)で、前年より118人減少した。高等学校等進学率は99.4%(前年99.3%)で、全国第3位(前年第6位)である。
- ・就職者数(表1)のd、e、j、kの合計)は5人で、前年より3人減少した。就職率は0.1%(前年0.1%)であった。

<表1> 卒業生の進路状況

各年 3月	実 数 (人)													割 合 (%)			
	卒業生 a	高等学校 等進学者 b	専修学校等進学・入学者 c			就職者等					不詳 死亡 i	(再掲)		高等学校 等進学率		専修 学校等 進学・ 入学率 c/a	就職率 (d+e+j+k) /a
			専修学校 (高等課程)	専修学校 (一般課程) 等	公共職業 能力開発 施設 等	自営 業主 等 d	常用労働者		臨時 労働者 g	その他 h		bcの うち 就職者 j	【のうち雇 用契約期間 が1年以上 かつフルタ イム勤務相 当の者 k	富山県 b/a	全国		
							無期雇 用労働 者 e	有期雇 用労働 者 f									
H30	9,656	9,594 (9,532)	0	0	0	4	7	1	5	45	0	4	1	99.4 (98.7)	98.8 (96.3)	0.0	0.2
H31	9,552	9,472 (9,369)	3	0	1	1	11	4	4	56	0	2	2	99.2 (98.1)	98.8 (95.8)	0.0	0.2
R2	9,304	9,240 (9,115)	0	2	1	4	6	3	3	45	0	1	2	99.3 (98.0)	98.8 (95.5)	0.0	0.1
R3	9,031	8,969 (8,821)	0	1	2	3	5	0	7	44	0	0	0	99.3 (97.7)	98.9 (95.0)	0.0	0.1
R4	8,907	8,851 (8,683)	3	0	0	2	2	0	3	46	0	1	0	99.4 (97.5)	98.8 (94.3)	0.0	0.1

(注) ・ () 内は高等学校通信制課程への進学者を除いた数値である。
 ・平成30年度より学校基本調査において「就職者」が「就職者等」に変更された。
 ・「就職率」については、平成29年度以前の考え方と変更はない。

2 高等学校等進学状況

- ・主な進路先は、高等学校全日制が8,141人(前年8,243人)、高等学校定時制が248人(前年256人)、高等専門学校が230人(前年237人)などとなっている。

<表2> 高等学校等進学状況

各年3月	区 分	進学者計	高等学校			高等専門 学 校	特 別 支 援 学 校 高 等 部
			全日制	定時制	通信制		
H29	実 数(人)	10,038	9,372	266	44	263	93
	進学率(%)	99.3	92.7	2.6	0.4	2.6	0.9
H30	実 数(人)	9,594	8,946	262	62	254	70
	進学率(%)	99.4	92.6	2.7	0.6	2.6	0.7
H31	実 数(人)	9,472	8,745	295	103	247	82
	進学率(%)	99.2	91.6	3.1	1.1	2.6	0.9
R2	実 数(人)	9,240	8,530	287	125	240	58
	進学率(%)	99.3	91.7	3.1	1.3	2.6	0.6
R3	実 数(人)	8,969	8,243	256	148	237	85
	進学率(%)	99.3	91.3	2.8	1.6	2.6	0.9
R4	実 数(人)	8,851	8,141	248	168	230	64
	進学率(%)	99.4	91.4	2.8	1.9	2.6	0.7

(注) 端数処理のため、各進学率を合計しても進学者計の進学率と一致しない場合がある。

令和4年3月県内高等学校卒業生進路状況調査結果

令和5年1月16日
県立学校課

令和4年3月に県内の高等学校(公立41校2分校、私立10校)を卒業した者について、文部科学省の学校基本調査に合わせて令和4年5月1日現在における進路状況を調査した結果は、次のとおりである。なお、全国順位は学校基本調査によるものである。

1 卒業生の進路状況

- ・高等学校卒業生数は8,517人(男子4,322人、女子4,195人)で、前年より203人減少した。
- ・大学等(大学学部、短大本科、大学・短大通信制課程、放送大学、大学・短大別科、高等学校専攻科及び特別支援学校高等部専攻科)への進学者数は4,814人で、前年より39人増加した。大学等進学率は56.5%(前年54.8%)で、全国第18位(前年18位)である。
- ・専修学校等への進学・入学者数は1,772人である。無認可の予備校・私塾等進学者数を加えると、1,967人で、前年より69人減少した。
- ・就職者数(表1のd、e、k、l、mの合計)は1,583人で、前年より173人減少した。就職率は18.6%で前年より1.5ポイント低下した。

表1 卒業生の進路状況

各年 3月	実 数 (人)													割 合 (%)					
	卒業生 a	大学等 進学者 b	専修学校等進学・入学者 c			就職者等					左記以外の者		(再掲)			大学等 進学率 b/a	専修 学校等 進学・ 入学率 c/a	就職率 (d+e+k+l+m)/a	進学と 就職の 割合 (b+c+d+e+h+m)/a
			専修学校 (専門課 程)	専修学校 (一般課 程)等	公共職業 能力開発 施設等	自営 業主等 d	常用労働者		臨時 労働者 g	無認可 の予備 校・私 塾等h	その他 i	不詳 死亡 j	左記b、cの うち就職者		fのうち 1年 以上7 ヶ月 以内 m				
							無期 雇用 k	有期(1年以 上)7ヶ月以 下l					再掲 n	再掲 o					
H30	9,195	4,770 (4,768)	1,544	341	153	2,000		26		235	112	0	3	0	14	51.9 (51.9)	22.2	21.9	98.5
H31	9,142	4,819 (4,814)	1,525	259	144	1,939		16		294	143	0	8	0	3	52.7 (52.7)	21.1	21.3	98.3
R2	9,192	5,087 (5,086)	1,469	166	140	16	1,936	2	17	195	164	0	1	0	2	55.3 (55.3)	19.3	21.3	98.0
R3	8,720	4,775 (4,772)	1,516	183	130	21	1,729	1	0	207	158	0	5	0	1	54.8 (54.7)	21.0	20.1	98.2
R4	8,517	4,814 (4,812)	1,518	147	107	15	1,565	3	10	195	142	1	2	1	0	56.5 (56.5)	20.8	18.6	98.2

(注) ・ () 内は大学・短期大学通信教育部及び放送大学への進学者を除いた数値である。
 ・ 令和2年度の学校基本調査より「就職者」が「就職者等」に変更されたことにより、表1の平成31年3月卒以前の欄の値を以下のように取り扱った。
 ・ 「自営業主等d」と「無期雇用労働者e」は、「就職者(正規)」の値とした。
 ・ 「有期雇用労働者f」と「臨時労働者g」は、「一時的就業者」の値とした。
 ・ 「(再掲)fのうち1年以上フルタイムm」は、「就職者(非正規)」の値とした。
 ・ 「就職率」については、平成31年3月卒以前の考え方と変更はない。
 ・ 無認可の予備校・私塾等に進学した者は、H29まで「専修学校(一般課程)等」に含めて計上していたが、H30に変更となった学校基本調査に合わせて「左記以外の者」に計上している。

2 大学等への進学状況

(1) 学校種別、設置者別の状況

- ・ 主な進学先は、大学学部は4,167人で前年より22人増加し、進学率では、1.4ポイント上昇の48.9%となっている。うち国公立では60人増加し、私立では38人減少した。

<表2> 学校種別・設置者別の進学状況

各年3月	区 分	大学等 進学者	大 学 学 部				短期大学本科				その他
			計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	
H30	実 数(人)	4,770	4,078	1,172	407	2,499	622	0	24	598	70
	進学率(%)	51.9	44.4	12.7	4.4	27.2	6.8	0.0	0.3	6.5	0.8
H31	実 数(人)	4,819	4,048	1,095	463	2,490	698	0	34	664	73
	進学率(%)	52.7	44.3	12.0	5.1	27.2	7.6	0.0	0.4	7.3	0.8
R2	実 数(人)	5,087	4,351	1,219	524	2,608	667	0	20	647	69
	進学率(%)	55.3	47.3	13.3	5.7	28.4	7.3	0.0	0.2	7.0	0.8
R3	実 数(人)	4,775	4,145	1,134	509	2,502	575	0	26	549	55
	進学率(%)	54.8	47.5	13.0	5.8	28.7	6.6	0.0	0.3	6.3	0.6
R4	実 数(人)	4,814	4,167	1,172	531	2,464	585	0	21	564	62
	進学率(%)	56.5	48.9	13.8	6.2	28.9	6.9	0.0	0.2	6.6	0.7

(注) ・端数処理のため、各進学率を合計しても大学等進学者の進学率と一致しない場合がある。

・「その他」には、大学・短大通信制課程、放送大学、大学・短大別科、高等学校専攻科及び特別支援学校高等部専攻科を含む。

(2) 大学学部・短大本科の所在地別の状況

・富山県内に進学した者の割合は28.1%(前年27.1%)で、前年より1.0ポイント上昇した。県外については、関東地区が18.6%(前年19.8%)、近畿地区が12.5%(前年11.1%)、中部地区が11.0%(前年11.7%)などとなっている。

<表3> 所在地別の進学状況

各年3月	区 分	大学・短大 進学者総数	富山県	石川県	福井県	新潟県	関 東	中 部	近 畿	その他
H30	実 数(人)	4,700	1,168	1,027	90	147	1,026	565	517	160
	構成比(%)	100.0	24.9	21.9	1.9	3.1	21.8	12.0	11.0	3.4
H31	実 数(人)	4,746	1,347	959	99	152	1,021	541	456	171
	構成比(%)	100.0	28.4	20.2	2.1	3.2	21.5	11.4	9.6	3.6
R2	実 数(人)	5,018	1,320	1,040	105	201	1,014	619	540	179
	構成比(%)	100.0	26.3	20.7	2.1	4.0	20.2	12.3	10.8	3.6
R3	実 数(人)	4,720	1,281	963	93	207	934	553	526	163
	構成比(%)	100.0	27.1	20.4	2.0	4.4	19.8	11.7	11.1	3.5
R4	実 数(人)	4,752	1,333	970	83	179	882	523	596	186
	構成比(%)	100.0	28.1	20.4	1.7	3.8	18.6	11.0	12.5	3.9

(注) ・端数処理のため、各構成比を合計しても100.0%にならない場合がある。

(3) 大学学部・短大本科の学部系統別の状況

・学部系統別では、社会科学が30.2%(前年30.5%)と最も高く、次いで工学が17.9%(前年18.0%)、保健が11.9%(前年11.1%)などとなっている。

<表4> 学部系統別の進学状況

各年3月	区 分	大学・短大 進学者総数	人 文 学	社 会 学	理 学	工 学	農 学	保 健	家 政	教 育	その他
H30	実 数(人)	4,700	606	1,432	167	840	70	459	200	543	383
	構成比(%)	100.0	12.9	30.5	3.6	17.9	1.5	9.8	4.3	11.6	8.1
H31	実 数(人)	4,746	557	1,465	168	828	87	503	200	539	399
	構成比(%)	100.0	11.7	30.9	3.5	17.4	1.8	10.6	4.2	11.4	8.4
R2	実 数(人)	5,018	574	1,510	188	875	91	559	215	568	438
	構成比(%)	100.0	11.4	30.1	3.7	17.4	1.8	11.1	4.3	11.3	8.7
R3	実 数(人)	4,720	566	1,438	169	850	60	524	216	549	348
	構成比(%)	100.0	12.0	30.5	3.6	18.0	1.3	11.1	4.6	11.6	7.4
R4	実 数(人)	4,752	545	1,434	194	851	86	565	200	519	358
	構成比(%)	100.0	11.5	30.2	4.1	17.9	1.8	11.9	4.2	10.9	7.5

(注) ・系統別の区分内容は次のとおりである。

「農学」：農学、水産学

「保健」：医学、歯学、薬学、看護学、医療衛生学

・端数処理のため、各構成比を合計しても100.0%にならない場合がある。

3 専修学校等への進学・入学の状況

- 専修学校等への進学・入学者 1,772 人のうち、医療関係が 22.7% (前年 21.8%) と最も高く、次いで工業関係が 17.6% (前年 18.2%) で、商業実務関係が 16.6% (前年 16.1%) などとなっている。

<図 1> 専修学校等への進学・入学状況

単位：%						
医療関係	工業関係	商業実務関係	衛生関係	認可を受けている予備校	服飾家政関係	文化・その他
22.7 (21.8)	17.6 (18.2)	16.6 (16.1)	14.5 (12.5)	7.3 (8.7)	4.1 (5.6)	12.4 (13.8)
				教育関係 2.0(1.3)		
				社会福祉関係 1.9(1.1)		
				農業関係 1.0(0.9)		

- (注) ・ () 内は、前年度調査結果の数値である。
 ・ 端数処理のため、各割合を合計しても 100.0% にならない場合がある。

4 就職の状況 (職業別)

(1) 県内・県外別の状況

- 就職者 1,583 人の就職先を県内・県外別にみると、県内就職者は 1,508 人と県外就職者の 75 人を大きく上回り、県内就職割合は 95.3% (前年 95.0%) で全国第 2 位 (前年第 2 位) となっている。

(2) 職業別の状況

- 就職者を職業別にみると、生産工程従事者が 52.3% (前年 51.5%) と最も高く、次いで建設・探掘従事者が 11.1% (前年 8.8%)、サービス職業従事者が 7.6% (前年 9.2%) などとなっている。

<図 2> 就職状況 (職業別)

単位：%									
生産工程従事者	建設・探掘従事者	サービス職業従事者	専門的・技術的職業従事者	事務従事者	保安種業従事者	販売従事者	輸送・機械運転従事者		
52.3 (51.5)	11.1 (8.8)	7.6 (9.2)	7.2 (8.5)	6.0 (6.5)	4.1 (3.5)	3.9 (5.0)	3.2 (2.8)		
							運搬・清掃等従事者 1.9(2.2)		
							農林漁業従事者 1.3(0.9)		
							その他 1.5(1.1)		

- (注) ・ () 内は、前年度調査結果の数値である。
 ・ 端数処理のため、各割合を合計しても 100.0% にならない場合がある。

5 進路決定率

- 進路決定率 (進学者と就職者の合計の割合) は、98.2% (前年 98.2%) となっている。

<表 5> 進路決定率

各年 3 月	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
割合 (%)	97.8	98.2	98.5	98.3	98.5	98.5	98.3	98.0	98.2	98.2

- (注) ・ 進路決定率は、表 1 における (b+c+d+e+h+m)/a で、H26 に本県独自に発表した指標である。

第6回令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会の開催結果について

1 検討委員会の開催

- ・令和4年12月15日（木） 午前10時から午前11時50分まで、県民会館にて開催
- ・委員12名出席

2 主な意見等

(1) 普職比率について

- ・平成に入ってからこの比率できており、先般のアンケート結果でも、普職比率は現状のままで良いのではないかという声が多かった。そういう意味では、今の普職比率に収斂しているのではないかと思う。
- ・普通系学科と職業系学科の比率が66対34くらいから、10%以上変われば「変わっているな」と思うが、まだ誤差の範囲ぐらいと感じた。
- ・志願倍率が普通系1.03倍、職業系1.03倍ということで、普職比率が今の段階でどちらかに偏っているということはないので、適切ではないかと思う。
- ・普通科、職業科、総合学科の3学科を固持する限り、普職比率を誘導してはいけないと思うし、要望やニーズ、産業構造などに従って、この比率を維持することは、ある意味、今は調和している。
- ・大きいビジョンがないと、普職比率がどうあるべきかということは考えられないのではないか。
- ・生徒数が減っていくので、職業系の学級数を維持できるかどうかという長期的な問題があると思う。ずっと普職比率を守るのであれば、維持できなくなるところで比率にこだわる必要があると思う。
- ・職業科として独自性を出していくのであれば、普職比率は大事になってくるかもしれないが、普通科に職業的な専門教育が入ったというレベルの職業科であれば、普職比率を設ける必要はないと感じている。

(2) 県立高校の学びの改革について

- ・高校教育に必要なものが3つあると考えている。一つ目はSDGsの考え方に基づくこと、二つ目は主体性を向上させる取組み、三つ目が多様性、ダイバーシティの取組み。目指す姿（案）に、この3つをしっかりと取り込んでいく内容が入っているので、この考え方でぜひお願いしたい。

- ・教育者がコミュニケーションを図り、良い例をたくさん学べる環境があると、学びの質がさらに上がるのではないかと。骨子の中に、教育者に対する内容があるとよいと思う。
- ・普通系学科、総合学科には、「学びの魅力や特色について効果的な情報発信を図る」といったことが書かれていない。学校の魅力や特色についての情報は、普通科でも総合学科でも出さなければならないのではないかと。
- ・取組みを進めていく上では、子どもたちの数が減って学校が小さくなったとしても、例えば学校行事は同じように行われるので、先生方の配置などにも配慮が必要だと思う。
- ・目指す姿（案）にある項目は、小学校から中学校までの義務教育の9年間を通して、子どもたちに身につけて欲しい力や目指す方向性に合致している。目指す方向性として、小学校、中学校そして高校教育という富山県としての一貫した流れを感じ取ることができる表現になっている。
- ・ウェルビーイングは「真の幸せ」という言葉に直訳されてしまうが、心理学的にも社会的にも非常に深い意味がある概念であり、この概念はこれからの教育にはなくてはならないものであると思う。
- ・過去の取組みに対して「どういう成果があつて、どうなったのか」というところがないと、非常に難しいことになると思う。計画を立てる時は、まず過去の取組みをチェックするところから考えてやっていただくと、もう少し違ったところが見えてくるのではないかと。
- ・各学科等の取組み(案)に、各学科のいろいろな取組みが掲げられているが、最も重要なものはどれなのかが見えてくると良いと思う。
- ・情報発信について、対面が非常に重要で、生徒にとって一番良いと思う。保護者向けの情報を対面やオンライン、ホームページといったもので積極的に発信することで、家庭の話し合いや情報交換ができると思うので、ぜひ進めてもらいたい。
- ・高校自身も切磋琢磨しなければならないと思っている。地方の県立学校は、伝統に伝統を重ね、言い過ぎかもしれないが、ずっと変わっていない。しかし、首都圏では次から次と、いろいろな高校が出てきて、いろいろな成果を出している。この骨子素案をフルモデルチェンジするぐらいの意気込みでつくっていただきたい。
- ・普通科に限らず職業系専門学科においても探究的な学習をさらに進めて、課題解決力を高め、自立した学習者となって社会に貢献する姿を期待する。
- ・自分の未来を切り拓くことは、自主性を尊重していかななくてはならない。その自主性を引き出す形でなければいけない。より生徒の自主性を伸ばす形を考えていただければと思う。

(3) 学区のあり方について

- ・全県一区という考えについては反対。富山市中心の考えのように思う。前回のアンケート結果にあったように、子どもたちや保護者は通学時間を2番目の理由に挙げて高校を選択している。
- ・現時点で普通科の高校については、各学区にバランスよく配置されていると考えており、生徒の通学実態に即したものになっていると思う。
- ・通学区ということであれば、現状で何か制約になっているようには見えないし、現状のままでいいのかもしれない。本来のあり方や教育の議論の中で、例えば、新しい考え方の高校をつくるということになった場合に、隣接学区しか行けないことが制約になるのであればそれを取り払えばいい。
- ・各高校が特色を出せば出すほど、学区を越えて通学したいという生徒が出てくることになるので、その考えをどうしていくのかということがあると思う。理想としては、行きたい高校に行けることが良いと思う。そのためには、各高校からいろいろな特色を出してもらい、生徒が希望を持って選択できれば良い。
- ・全県どこでも通えるようにする方が良いという意見に対しては、非常に賛成。しかし、そうなった時に、県内の都市部にあたる所に子どもたちが行きたいという希望がどんどん集まってくるのではないかと思う。新川地区の子どもたちがどんどんそちらへ流れることによって、学校の配置が変わってくると思われる。その辺のことは考慮いただきたい。
- ・県内でも魅力のある高校づくりをしていく中で、全県一区にしながらい県内にも子どもたちを集めていくようなことができれば、もっと面白い高校づくりができると感じている。
- ・その学校で学びたいと考えている生徒にとっては、通学時間は非常に大きい要素だと思う。通学を考える際には、公共交通機関の整備状況といった通学環境を考慮しながら設定されることが基本ではないかと思う。
- ・高校の配置等を再編も含めて考えていくのであれば、公共交通機関とその学校の所在地との位置付けは非常に大きなファクターになるのではないかと思う。
- ・砺波だけが富山学区に通えないというのは、やや不公平な感じがする。現実には、富山学区に進学する人も多いという現状がある。いきなり全県一区が無理ならば、現行の学区制は変えないまでも県立高校普通科の進学に関しては、高岡と砺波を便宜的に一学区にみなしてもよいのではないか。

3 今後の予定

- ・1月下旬に令和2年度新高校開校に係る評価などについて議論する予定

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

令和5年1月16日
保健体育課

1 調査概要

- (1) 対象児童生徒 小学校第5学年及び中学校第2学年
(2) 調査方式 悉皆調査（令和4年4月～7月実施）

2 参加状況

	小学校5年生		中学校第2学年	
	本県	全国	本県	全国
参加校数 (校)	177	18,652	74	9,454
参加児童生徒数 (人)	7,730	985,856	7,613	910,664

3 種目別の平均値（網かけは、本県が全国を上回っている種目）

種目等	小学校第5学年				中学校第2学年			
	男子		女子		男子		女子	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国
握力 (kg)	16.55	16.21	16.23	16.10	28.73	28.95	22.90	23.17
上体起こし (回)	18.98	18.86	18.19	17.97	25.19	25.64	21.27	21.58
長座体前屈 (cm)	33.89	33.80	38.39	38.20	44.24	43.76	46.32	46.05
反復横とび (点)	42.80	40.37	41.51	38.67	51.01	51.02	45.93	45.81
持久走 (秒)					398.80	410.92	292.57	303.96
20mシャトルラン (回)	50.96	45.93	42.27	36.98	80.56	77.69	54.13	51.34
50m走 (秒)	9.54	9.53	9.65	9.70	8.10	8.06	8.99	8.97
立ち幅とび (cm)	155.06	150.86	150.41	144.59	199.09	196.82	170.08	166.89
ボール投げ (m)	21.52	20.31	14.46	13.16	20.67	20.20	12.95	12.38

・本県では、実技テストの多くの種目で全国平均を上回りました。

4 総合計点及び体力合計点の平均値（体力合計点は、各種目を得点化し合計した点数）

	総合計点 (小5-中2男女の合計点)		小学校第5学年				中学校第2学年				
			男子		女子		男子		女子		
	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国	
R4	合計点	199.89	194.79	53.94	52.28	56.68	54.31	41.19	41.04	48.08	47.42
	全国順位	9位		7位		7位		28位		22位	
R3	合計点	201.30	196.65	53.88	52.52	56.47	54.64	42.03	41.18	48.92	48.56
	全国順位	10位		9位		9位		18位		29位	
R1	合計点	204.63	201.11	54.68	53.61	57.89	55.59	41.86	41.69	50.20	50.22
	全国順位	12位		9位		8位		25位		23位	
H30	合計点	207.53	203.04	55.51	54.21	57.72	55.90	42.85	42.32	51.45	50.61
	全国順位	11位		9位		9位		22位		14位	
H29	合計点	205.27	201.96	55.29	54.16	57.30	55.72	42.53	42.11	50.15	49.97
	全国順位	12位		9位		10位		20位		19位	

【全国の場合】

体力合計点については、令和元年度調査から連続して小・中学校の男女ともに低下しております。

【本県の場合】

〈総合順位〉 本県の順位は、小5男女ともに7位、中2男子28位、中2女子22位、総合計点で9位となりました。

〈小学校〉 男女ともに体力合計点がやや改善しましたが、コロナ（令和元年）以前の水準と比較すると、総合的な体力は戻っていないと考えられます。

〈中学校〉 男女ともに体力合計点が低下し、全国と同様に、コロナ以降、総合的な体力は低下傾向にあると考えられます。

今後、本調査結果を詳細に分析し、体育授業の改善や充実を図るとともに、継続して体力向上施策に取り組んでまいります。

今後の教育委員会等の日程について

- 令和5年2月14日(火) 13:00 予定
 教育委員会 (県民会館 611 号室)